

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	コロナ禍において感染拡大に尽力しながらも、利用者の楽しみづくりに取り組み、利用者と施設が丸となって乗り切ってきた
	内容	例年、利用者の楽しみである、祭りや旅行等の行事は、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、中止を余儀なくされた。さらに、昨年度冬より、都内の感染拡大と併せて、施設内の感染対策強化が必要な状況となり、全ての予定を見合わせ、施設は感染対応等に追われた。その中で、少しでも利用者に明るい時間を提供しようと、施設では季節の感じられる弁当を用意したり、職員がキャストに扮したドラマを作成して上映した。利用者も感染防止行動に協力し、感染状況が収束するまではもちろん、現在に至るまで全員が協力して乗り切ってきた。
2	タイトル	さまざまな方法で利用者の嗜好や要望をきめ細かく把握し、献立等に反映させるしくみをいかし、満足度の高い給食が提供できている
	内容	施設は、食事は利用者の大きな楽しみの一つであり、健康の維持・向上のためにも極めて重要なものと考えている。年1回の嗜好調査、年2回の残さい調査、月1～2回の利用者との給食ミーティングでの話し合い等により、きめ細かく利用者の希望や嗜好を把握し、献立や食材に反映させている。職員による給食会議でも、献立や行事食、提供方法等について検討している。こうした取り組みにより、献立や提供方法は大変バラエティーに富み、嗜好調査では81%が給食が楽しみと答え、96%が給食がおいしいと答えており、満足度は高いものとなっている。
3	タイトル	虐待防止委員会を活用し、虐待防止に留まらず職員のサービスマナーの向上につなげる取り組みを行っている
	内容	虐待防止委員会を中心として年に1回のセルフチェックの実施や年に3回実施している委員会の開催により虐待防止に努めている。それだけでなく、職員発案で定期的にマナー向上のポスターの掲示や職員の名札に標語を標記して意識付けを行い、常に相互に確認できる体制を構築している。委員会を虐待防止の取り組みに活用するに留まらず、職員のサービスマナーの向上につなげる場として活用している。委員会の中では職員同士で良いところを見つけて褒め合うことで、自己肯定感を高めて強みをいかせるなど、さまざまな効果へつなげる取り組みを行っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	現在取り組まれている中・長期計画の策定を通じ、経営層と施設の目指す将来ビジョンの共有化の取り組みが期待される
	内容	今年度、開設60周年を迎える当施設では、これまでを踏まえて、これからの時代に合わせて事業を維持・向上していくための中・長期ビジョンを検討しており、2022年度をスタートとする計画に向けて準備を進めている。一方で、施設運営の基盤となる法人としての中・長期計画も、現在策定中となっている。施設建物の建て替えや変化する事業環境など、新たな経営課題に対して現場の力を最大限発揮するためにも、経営層と施設の間での将来ビジョンの共有化を進める取り組みが期待される。
2	タイトル	セーフティネット施設として、さまざまな障害特性のある利用者を受け入れることができる体制作りを目指していくことに期待したい
	内容	施設では「村山荘マニュアル綴り」として個別支援計画の記載方法から支援マニュアルまで各種取り揃えている。職員が日常的に活用できるよう、ファイルに綴り、いつでも見られる他、パソコン内のデータにも保管され全職員に周知できる体制を構築している。また、マニュアルや先輩職員からの指導や助言があれば指示通りにサービスを提供できる一方で、重複障害の利用者もいる等、多様化している。今後はさまざまな状況の利用者の受け入れを強化するため、職員がお互い、障害特性の知識を深め、共有できる研修体制の構築を図っていくことに期待したい。
3	タイトル	利用者の個別性や多様なニーズを考慮し、余暇活動の充実に向け、より多くの利用者が参加できる活動メニューを創出し実施されたい
	内容	利用者調査で「楽しみにしている行事や活動はありますか」の問いに「はい」と答えたのは52%で、趣味の活動に参加して楽しいという利用者がある一方、参加しているのは28人で、参加全利用者の27%と多くない。作業に参加できない利用者が増えていることから、作業以外の活動の充実が必要となっている。クラブ活動のメニューの見直し、フロアごとの活動の企画・実施に加えて、一人で過ごしたいと希望する利用者も多いことから、個別の活動支援を行うなど、活動を通して利用者の能力と意欲が高まるよう、余暇活動の充実に取り組まれたい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	救護施設としての機能を果たすことを通じて、社会福祉事業の意義を高め、施設理念の実現につなげている
	内容	基本理念として、「利用者個々の可能性を追求し、より豊かな生活や自立を援助する」、「専門職としての知識や技術の習得に努める」と掲げるなか、施設では循環型セーフティネットの機能を果たすべく、個別支援計画に基づく支援の精度を上げる取り組みを行った。この成果として、職員の理解が深まり、利用者の自立生活に向けた支援の質を高めることにつながっている。法改正により、他の保護施設も開設が進むなか、施設としては総合的なサポート・アシスト機能を発揮し、施設理念の実現に取り組んでいる。
2	タイトル	さまざまな方法で利用者の嗜好や希望を把握し、メニュー作りに反映させ、変化に富んだ魅力的な給食を提供している
	内容	食事は利用者の健康維持・増進に重要であるとともに、利用者の生活上の大きな楽しみの一つである。施設では、調理員7名と栄養士1名が手作りで、利用者の嗜好や希望に応じ、季節感のある変化に富んだ給食を提供している。メニューについては年1回の「利用者調査」での意見を反映させるだけでなく、年2回の「残滓調査」の結果を味付けや調理法の見直しに生かすことで、美味しく、食べ残しのない給食作りへの不断の努力が続けられている。利用者調査でも「食事が美味しい」という声が多数寄せられており、給食の満足度は大変高くなっている。
3	タイトル	利用者からの意見書と「職員あれおやメモ」を活用し、サービス改善と事故対策につなげている
	内容	平成26年から「あれおやメモ」による、業務改善やサービス向上に向けた「気づき」を集める活動に力を入れている。「食材を入れる容器がキッチンとしまっていない」「施設内に段差でつまづき転倒しそうな場所がある」といった、事故やヒヤリハットとなる前に職員が気が付いた点をメモとして集め、サービス改善するために必要な物品を購入したり、事故予防の対策を行っている。また、利用者からの要望や質問を意見書にして、意見箱に入れてもらい、多くの意向を集めて業務改善につなげる取り組みに尽力している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	近い将来に訪れる業務伝承を見据え、若い職員が夢を持って働き続けられる人事施策の検討の取り組みが期待される
	内容	施設では、円滑な人間関係を育む、「褒め活」や、気づきを共有し組織力を高める、「あれおやメモ」、個人面談の見直しなどに取り組む一方で、慢性的な人材不足と職員の高年齢化の問題に直面している。今回の職員自己評価のコメントにも、人材確保の早急な解決を求める声が多数見られており、施設がこれまで培ってきた支援の精神とノウハウを引き継げるよう、若手職員を確保することの重要性が高まっている。そのためにも、現在取り組み中のキャリアパスの見直しと、施設特性にマッチした人事施策が早期に整備されることが期待される。
2	タイトル	救護施設の存在意義を広く知らせていくために、可視化する取り組みとして、ホームページの定期的な情報更新を期待したい
	内容	施設のホームページは見やすい内容であり、各種資料がダウンロードでき、有用である。また、「さつきニュース」では過去の広報誌「さつきだより」の紹介とボランティア募集などのお知らせ、「さつきレポート」では年間を通した様々な活動を伝えているが、両コーナーとも現在、更新がなされていない状況である。事業計画では重点運営方針として、「救護施設の存在意義をさらに見える化していく」とあり、サービスマナーの向上運動など取り組んでいる活動を地域に伝えていくことは重要であるため、今後はホームページの定期的な情報更新を期待したい。
3	タイトル	家族等との関係維持のため、利用者の状況を個別に開示・提供は本人意向を踏まえるとともに、家族等からの利用者の保護も徹底されたい
	内容	さまざまな経緯から家族との関係が途絶えていたり、良好でない利用者が少なくないが、利用者の自立促進には家族等の支援と協力が鍵となるケースもある。家族等が利用者の状況を問い合わせる場合は、利用者の意向を聞いた上で、利用者情報の開示・提供を行い、利用者や家族等の関係を維持・促進する取り組みに期待したい。一方で、事情があり保護等が必要で、利用者の電話の取り次ぎや存否回答を禁止している場合もあるため、個々の最新の情報を事務室及び援助員室に貼り、電話を取り次いだり本人情報が漏洩することがないよう徹底されたい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	労働を尊ぶ文化、職員の思い、就労意欲をかき立てる各種のしくみが、支払い工賃や就業率の高さなど高水準のアウトプットを実現している
	内容	事業所は都内の同種と比較しても高水準のアウトプットを実現している。それを可能にしているのは、利用者の労働を尊び、新しいことへ挑戦しようとする事業所の文化が土壌にあり、利用者の心に働きかける職員の思いと、それを事業所のしくみとして内包化した各種工夫にある。中でも、事業所の高賃金と特に就労移行支援における就業率の高さには目を見張るものがあり、利用者の回転も早くなっている。事業所としての到達目標を「就職」に定め、それに向けて、真摯に取り組んでおり、事業所が進めている「選択と集中」が功を奏した結果を生み出している。
2	タイトル	個人情報の取り扱いについては「同意書」で取り扱い方法を把握し、各フロアにオリエンテーション内容を掲示し、注意喚起を行っている
	内容	個人情報は、氏名・住所などの基本情報から、広報誌などへの写真の掲示など多岐にわたっており、同意書には、該当する項目を箇条書きで示し、使用の可否を把握している。広報誌などで、本人を紹介する場面でも、写真掲載に同意がない場合には、イラストなどを用いて工夫している。また、「オリエンテーション(利用にあたっての心得)」では、あだ名で呼び合うこと、事業所内での連絡先の交換は原則禁止であることなどが明記されている。これを各フロアに掲示し、職員はもちろん利用者にも、個人情報の取り扱いについての注意喚起を図っている。
3	タイトル	生活支援員である給食担当者が毎日の食事時間全体に関わり、利用者の食べる様子を観察して得られたデータは食事時間の充実にいかしている
	内容	食事そのものは同法人の隣接する福祉施設で調理されているが、事業所所属の栄養士が調理場からの運搬、配膳から下膳まで全般に関わっている。訪問調査では、きめ細かな箇所にまで目をかけ、実際の食事の場に臨席をし、利用者一人ひとりの食べ方、食べる量に注意を向けている様子が確認できた。スペースの点から交代制をとってはいるが、時間に追われることなくゆっくり食事ができるように、柔軟な対応を取り入れる等、配慮している。また、利用者の障害特性や人間関係を考慮して、着座席は予め指定する等の工夫も行っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者の健康や作業及び訓練への支援のみならず、計画書に本人の役割や生きがいに対する支援を組みこんでいくことに期待したい
	内容	個別支援計画の様式に記入する項目を設け、支援内容に漏れがないよう取り組み、担当者は、定期的な利用者との面談で、計画の進捗状況を確認している。面談は項目に沿って、健康状態の変化や日常生活を把握し、作業や訓練状況については、利用者的目標達成の進捗を確認し合っている。また、利用者は、健康状態を維持しながら、作業や訓練を行う中で、励みを得るなど生きがいにつなげている。そのため、計画書の様式に「役割や生きがい」などの項目を設け、利用者との面談時にも、努力している姿を共有できる時間を持つことに期待したい。
2	タイトル	法人の長い活動の歴史のなかで培ってきた良さを残しながら、後継人材の育成等、育成成果を高めるしくみづくりや施策推進が期待される
	内容	昭和21年に開設した戦災者・引揚者等の収容・保護施設の開設が法人の原点である。昭和27年に社会福祉法人となり、その後多様な事業種施設を創設し今日を迎えている。事業所は、職員の確保や育成・処遇等の人事管理について、措置制度時代のしくみの手直しを行いながら、時代の変化に対応する施策を推進している。また、職員のキャリアパスの整備やキャリアアップ支援施策も一定の条件整備に努めている。一方、職員の世代交替が進み、後継人材育成が課題となっているため、今後は、人材育成の成果を高めるしくみづくりと施策推進が期待される。
3	タイトル	固有の環境特性を展望しながら、近未来の法人と事業所像と到達の道筋を描いた中・長期計画を策定することが望まれる
	内容	法人及び各事業所では、それぞれ年度事業計画を策定し、計画・実施・評価・改善のPDCA管理サイクルを徹底している。その結果が、例えば就労継続支援B型での月額平均3万円超の高工賃実績や就労移行支援における高い就労率や定着率の実績となっている。今後は、法人全体で検討をすすめている中・長期計画の完成が望まれる。固有の環境変化を展望しながら、近未来の法人・事業所像と到達の道筋を描き、すでに法人の事業計画で触れている、国際的な取り組みである持続可能な開発目標「SDGs」を取り入れた計画が期待される。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者を包括的に支援する仕組みを充実させている
	内容	個別支援計画について丁寧な内容で作成するよう努めている。施設サービス計画書は入所後約1か月の暫定プランを含め234ケースを3名(うち2名介護職兼務)の介護支援専門員で作成している。サービス計画作成時には介護職員や看護師など多くの職員から話を聞き、目標やサービス内容に取り入れるようにしており、施設サービス計画書は概ね3から8か月の期間で口腔ケアを含む栄養ケア計画書と機能回復訓練計画を包括して作成している。また口腔ケアに関しては新たな歯科を受け入れ充実を図り、科学的介護にも積極的に取り組んでいる。
2	タイトル	サービス担当者会議には利用者本人の参加をはじめ、家族への参加も促す方針となっている
	内容	施設サービス計画の半年毎での更新時や利用者の心身状況の変化による変更時にはケアマネジャーを中心に多職種が参加するサービス担当者会議を開催し、利用者の支援方法の検討をしている。その際には利用者本人も心身状況に問題がなければ参加するようにし、また、家族への参加も促している。ただし、コロナ禍においては、参加の促しを控えているが、参加希望の強い家族については、コロナウイルス感染予防の徹底を行い、参加してもらっている。コロナ終息や感染状況の低下などのタイミングにより、家族参加の促しの再開をする予定となっている。
3	タイトル	利用者満足の実現に向け、様々な要望・ニーズに対応しつつ、高い数値の年間稼働率を達成している
	内容	事業所は安定的な収支バランスに向けて、入所者の欠員が出た場合の円滑な新規入所及び稼働率アップに向けた取り組みに努めている。また、第2ハトホームではオンライン面会を実施しているが、当事業所では、制限等を設けながらも対面での面会を行ったり、また利用者の通院に配慮した支援に努め利用者・家族のニーズに応えている。将来の入所を見据えショートのやり方の見直しを行い、入所者の欠員にも短期に円滑な新規入所を実施することができている。昨年度目標98%に対して、実績年間稼働率97.5%という高い数値を達成している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員間の情報共有や連携を円滑に推進させる仕組みの充実を検討されたい
	内容	カンファレンスは介護支援専門員のほか、介護職員や看護師、管理栄養士、機能訓練指導員、相談員などが参加して、本人や家族の要望を聞きながら、今後のケアについて話し合われている。モニタリングは毎月、担当介護職員が実施し、状態の変化をみてケアマネに相談したり、毎日の朝礼で日々の利用者の情報を共有して、ケアの見直しを検討している。連携を図る職種や人数が多いため、職員間の連携や情報の共有が不十分なところがあり、改善していきたいと感じている。業務の効率化やICT化の早期の定着や更なる推進を目指されたい。
2	タイトル	福祉用具を定期的に点検する仕組みを構築されたい
	内容	ベッド、介助バー、エアマット、耐圧分散マットレス、離床センサーなどの福祉用具は、車イスなどの移動に関する福祉用具と同様に、一覧表によって管理されている。不備や不具合などがあった場合には、福祉用具業者に依頼して修理や交換を行っている。ただし、これらの福祉用具は常時、使用しているということもあり、都度での点検のみとなっている。、今後は車イスなどの移動に関する福祉用具も含めて、定期点検や点検実施チェックの記録の作成などが必要とされる。
3	タイトル	直接雇用を基本としつつ、人員確保を充実させることを目指している
	内容	現場の人員不足に伴う業務省力化及びICT化を進め、業務改善・効率化のための見直しを実施して、介護業務支援システムや移乗介助機器を導入したり、また外国人技能実習生2名を受け入れるなどして対策に取り組んでいる。しかし、現場では職種によって業務量に偏りがあり、特定の職員の時間外業務が増えており、経営層はこの部分の改善に取り組んで行く必要性を感じている。さらに、これと関連して人員不足の解消に向けて、直接雇用を基本とし、法人と連携を取りながら改善していく計画である。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	新事業所オープンにあたり、多くの職員に関わってもらい準備を進めてきている
	内容	当事業所は令和3年5月に新事業所「第2ハトホーム」を東村山市でリニューアルオープンさせている。新事業所での準備として、全4回のワークショップの開催により、事業所の新コンセプト”思いあい・磨きあい・笑いあう”が新たな基本方針となった。その後の備品選定も含め、可能な限り多くの職員に関わってもらい準備を進めてきている。代替事業所の経験や新事業所に向けての準備により、事業所全体が一つのチームとしての一体感が見られている。
2	タイトル	入居者の生活が楽しめるための活動に取り組んでいる
	内容	従来ならば、ボランティアの協力などで行われていた入居者にとってのレクリエーションもコロナ感染防止対策により、外部との接触を断たれ季節行事なども中止となっている。そうした状況の中、恒例行事の夏祭り、運動会、クリスマスなどが職員参加で行われ、日々のレクリエーションでも、映画会やカフェ風のケーキ屋など入居者への気分転換を図る取り組みが行われている。
3	タイトル	経営層のリーダーシップは職員の支持が得られていることがうかがえる
	内容	経営層は定例の運営会議や各種の委員会などの機会を通じてリーダーシップを発揮し、事業所運営をリードしている。新事業所(令和3年5月より)の運営を開始するにあたり、新事業所の運営コンセプトを設けたり、入居者や家族の理解を促すことを目的に説明会を開催して、組織一丸となって事業が推進できるような体制作りに取り組んでいる。さらに、コロナ感染防止対策により現場の巡回は制限されているが、今回行った職員自己評価からも、リーダー層をはじめ一般職員からも経営層と信頼関係が確立されている声が聞かれている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	看取り介護の実施に向けて、改めて体制を整えることが望まれる
	内容	昨年度のサービス利用終了者は17名であり、その内長期入院が9名、逝去が8名である。看取り介護については、入居者・家族からの要望も強くあるが、まだ実施出来ていない。建て替え前に看取り体制構築のための準備を整えていたが、医師の体制が整備されず数年が経過している。特養の使命として、改めて体制を整えることが望まれる。看取り介護について看護師から介護士への情報提供や職員全体の”死生観について”の考え方をまとめるなど、事業所あげでの取り組みが期待される。
2	タイトル	支援の標準化が望まれる
	内容	排泄支援の取り組みとして、自然排泄、個別支援、自立支援と排泄担当職員が中心になって取り組みが計画実施されている。トイレ誘導についてのヒヤリングからは、食後誘導としてのとのことである。個別排泄表が作成されていることを考慮すると、排尿パターン(リズム)の把握による個別支援によるトイレ誘導の実施による自然排泄、自立支援の支援内容の充実が図れることが予測される。個別支援の取り組みとして排泄支援の標準化の検討が望まれる。また、1部利用されているカート使用の排泄業務の見直しにも期待したい。
3	タイトル	さらに安定した事業所運営を目指して組織一丸となって取り組まれない
	内容	中長期計画に沿って事業所移転計画も順調に進み、安全で快適な環境作りもなされている。新たな事業所での運営も順調に開始し、事業計画の達成に向けて円滑な運営に取り組んでいる。また、法人としても新たな職員評価制度の導入に取り組んでおり、職員一人ひとりの育成計画や研修計画の整備や考課者研修も開始している。また、入居者の個別支援についてはカンファレンスやモニタリングを通じて共有し、より自立した日常生活を過ごしてもらえるよう取り組んでいる。さらに、現状を維持向上させることを組織一丸となって目指されたい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	短期目標の達成度合いを確認しながら各種のサービスを調整している
	内容	ケアプラン第1表の「利用者や家族の生活に関する意向」の欄には、アセスメントやモニタリングを通じて確認した「主訴」を明示している。また、第2表には「解決すべき課題」や「長短目標」も明示されており、適切なケアプランになっていることが確認できている。目標に沿って各種サービスも適切に盛り込まれており、モニタリング訪問時には、特に「短期目標」に対しての達成度合いを確認することになっている。また、利用者と家族の意向が異なった際には、基本的には本人の意向を重視することになっている。
2	タイトル	さまざまな機会を通じてケアプランの進捗状況を把握することに力を入れている
	内容	モニタリング訪問時には心身状況について詳しく把握することを心がけており、歩行が不安定になってきたなど、日常生活動作に変化があった場合には、要因の分析に注力している。その際には利用者や家族の要望を聞き取り、一定期間の様子観察や新たなサービス導入などを一緒に検討することになっている。よって、モニタリング以外にも、利用者への電話、定期外訪問、サービス事業者からの情報提供等、常に利用者の状態把握に努めている。
3	タイトル	利用者調査の結果からは事業所との適切な関係が維持されていることがうかがえる
	内容	今回行った利用者調査の結果は、昨年に引き続き全体として高い満足度が確認できている。特に事業所の総合的な満足度は95.6%に達しており、事業所の真摯な対応が評価されていることがうかがえる。また、「ケアマネジャーの態度や言葉遣い、服装などは適切か」、「気持ちを大切にしてくれるか」、「プライバシーに配慮しているか」などの尊厳の尊重の各設問についても同様の高い満足度が聞かれていた。ただし、自由意見欄には、ケアプランのさらに分かりやすい説明を求める声も聞かれていた。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	ケアマネジメントに関するマニュアルをさらに充実させることを目指している
	内容	業務マニュアルをはじめ、3年毎の介護保険改定時には在宅サービスの単価(点数)などが見直されるケースがあるため、介護報酬の解釈に関わる書式や情報を職員室に常置し、何時でも確認できるようにしている。また、介護支援専門員の指導書や定例会議において相互にケアプランを点検し、事業所内の業務が適切になされているかをチェックすることになっている。ただし、アセスメントやモニタリング手法・ケアプラン作りなどのケアマネジメントに関するマニュアルについては、早期に完成することが期待される。
2	タイトル	事業所としての体制を強化するなど、事業の方向性を明確にすることが望まれる
	内容	地域包括支援センターをはじめ、地域の高齢者からの問い合わせを受けた際には適宜対応し、円滑に在宅生活が継続できるようなケアプラン作りに取り組んでいる。事業所は通所介護や訪問介護を併設していることや、法人は地域において特別養護老人ホームを運営しており、地域におけるニーズは高い。現在、ケアマネジャー2名体制で業務を推進しているが、利用者数は配置人員に対しては概ね上限になっていることがうかがえる。事業所としての体制を強化するなど、事業の方向性を明確にすることが望まれる。
3	タイトル	
	内容	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	自然環境を生かした遊びやコーナー遊び、「健康体育」、係活動等、豊かな保育活動を展開し子どもの生きる力を育てています
	内容	園庭は広く、周辺も自然に恵まれた環境です。夏には虫探し、冬には霜柱集めなど、子どもが好奇心を持ち、泥んこになって遊ぶ機会を十分に作っています。靴下をはかず素足で過ごすことで足の裏から刺激を受け、脚力をつけています。専門講師が月2回1歳児から「健康体育」で4足歩行中心に、体操等で体幹を鍛えています。園内では発達に合わせコーナー遊びを取り入れ、子どもは好きな遊びを選び集中して遊んでいます。年長児は清掃、カメの飼育、野菜栽培等の係、全体のまとめ役等の活動を生き生きと取り組んでいます。
2	タイトル	子どもの様子を降園時に担任が話すだけでなく、ドキュメンテーションを作成し、写真とコメントをつけて掲示し、可視化しています
	内容	降園時には、保護者に担任が子どもの一日の様子、休息の長さや時間帯を話します。乳児には、「連絡帳」を用いて伝えています。0歳児は時間軸に沿って記載し、子どもの24時間を保護者と共有しています。言葉だけではなく、写真とコメントをつけた、8つ切り画用紙の「ドキュメンテーション」と名づけ、登降園時に見やすいよう扉の傍に掲示し、可視化することで子どもの様子がわかるよう伝えています。廊下には、過去の「ドキュメンテーション」が見られるよう配慮しています。
3	タイトル	将来の人材構成を考慮しながら育成や配置に取り組んでいます
	内容	採用活動として学校訪問や法人4園の就職フェアを毎月行い、就職に結びつけています。園内のクラス担任や一時保育の担当、法人4園内の異動、リーダーの任命・配置、研修参加等育成や将来の人材構成を考慮しながら取り組んでいます。年齢の近い職員が同じクラスで相互の理解を深め、伝え合い、教え合いながら成長できるようにできる限り配置することに努めています。20～60代の幅広い職員が在籍し、会議で議題によって若い職員が意見を言いづらいことがあるため、できる限り意見や提案を出しやすい会議とすることに努めています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保護者会の在り方、保護者同士や職員との交流する機会を検討することが期待されます
	内容	50年余の長い歴史の中で作られた保護者が運営する保護者の会があります。園行事には保護者の会が様々な役割を担い、保護者の会主催の行事「つぼみっこまつり」も開催する等園の活動に協力してきました。保護者の就労状況や多様な考え方から今までのような保護者の会の運営が厳しくなっています。新型コロナ禍のため活動はほぼ中止を余儀なくされています。クラス懇談会は時間を短縮し、保護者参加行事は中止や人数制限をしているため保護者同士や職員との交流が少なくなっています。今後、交流の場を再開する、さらに広げる検討が期待されます。
2	タイトル	ICT委員会で運営支援システムをさらに活用できるよう検討し、業務の効率化とサービス向上を図ることが期待されます
	内容	ICT委員会で運営支援システムの導入で活用できるシステムを検討中です。ICT委員会でさらにシステムの利活用を検討し、サービスの向上や業務の負担軽減を図り、また、保護者への配信がタイムリーとなります。「連絡帳」を保護者が来園前に見られ、帰宅後には話題となって話し合えるようになります。日誌などでも、読みやすく、上司が承認しやすくなり、当日の給食を出勤前に写真で分かる等、また、不審者情報を即座に保護者と共有することができる等さらなるサービスの向上が期待されます。
3	タイトル	園全体のリスクを洗い出し、優先順位を明確にしたうえで対策を立てる検討が期待されます
	内容	リスクマネジメント委員会、衛生委員会及び防火管理委員会において、園が遭遇するリスクを想定し、優先順位を立てて対応に取り組んでいます。リスクマネジメント委員会は、事故と災害(人的・自然)、衛生委員会は感染症、防火管理委員会は火災等をそれぞれ取りあげて検討し、必要な対策を建て、訓練を実施しています。また、クラスごとに事故・怪我等を想定し、シミュレーションを行っています。こうした現状をふまえ、総合的にリスクを洗い出し、優先順位を明確にしたうえで対策を立てる必要性がないか、今後の検討が期待されます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	日常の保育と行事の連続性を意識し、子どものやりたい気持ちを引き出し実現するために工夫しています
	内容	戸外活動や食育の野菜の収穫、行事等季節を感じる機会を大切に発見や表現に繋がられるよう、健康体育、リズム活動、わらべうた遊び、和太鼓等様々な体験を大切にしています。体験の積重ねから運動会、お楽しみ発表会等の集団活動を通して、子どもがやりたいという気持ちとどうすればできるか、具体的内容に何を取り入れたいかなど子どもの意見を尊重し、実施に繋がっています。日常の保育や活動から行事へ、行事を日常の表現活動へと連続性を意識しています。新型コロナウイルス禍で制約のある中でも子どもの意向を実現できるよう工夫しています。
2	タイトル	非常勤職員を含めた情報共有の様々な組織的な取り組みを通して、連続性のある保育の実現を図っています
	内容	日常的に子どもや保護者の様子を把握し、昼礼や各種会議(緊急会議も含む)を定例化して情報共有に活用しています。保育の計画内容は保育支援ソフトで可視化し、各クラスのパソコンで共有しています。週・日案の作成に当たり子どもの主体性を大切にしながら、①職員もわくわく感を味えるクラス間留学の実施、②非常勤職員も含めたホワイトボードによる伝達、③職員通用口に設置した掲示板の活用等こうした様々な組織的な取り組みを通じ、非常勤職員を含む職員全体の情報共有を図ることによって連続性のある保育の実現を図っています。
3	タイトル	園長のリーダーシップのもと、園のあるべき姿を職員に明示し、その実現に向けた風通しのよい職場づくりに園全体で取り組んでいます
	内容	園長は、中・長期計画で園のあるべき姿を、本部の協力も得ながら職員に明示しています。その実現に向けて、法人や園の理念に対する深い理解と浸透を常に園の重点推進項目に掲げ、毎年継続的に取り組んでいます。2020年度は、法人が掲げる理念と一つ一つの言葉の意味を職員同士で考える機会を設けました。また、園の置かれている事業環境の分析結果や中期的な戦略について、園全体で話し合いました。これらの取り組みの中で、職員一人一人が伸び伸びと意見を出し合う良い組織風土が醸成され、風通しの良い職場づくりにつながっています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	新型コロナウイルス禍で保護者に保育環境や体制等が見えにくく、コミュニケーションのさらなる工夫が望まれます
	内容	「おたより帳」やその他の文書、保育支援ソフトの導入等によって新型コロナウイルス禍での保護者とのコミュニケーションの維持に努めています。懇談会や保育参加等できる形を探りながら継続させています。感染防止の観点から保護者に保育室の入室を自粛してもらうほか、手指の消毒、マスクの着用等を実施し、これまでの保育体制を維持しています。ところが、保護者にこれらの工夫が見えにくかったり、これまでは心配していなかったことが気がかりになったりします。新たな不安等に応え、保護者に説明・周知できるコミュニケーションの工夫が望まれます。
2	タイトル	地域の子育て家庭のニーズ調査の対象を拡げ、より多様な情報の収集が期待されます
	内容	園の理念の一つに「地域に貢献します」を掲げ、地域の子育て支援事業に力を入れたいと考えています。地域の子育て家庭向け情報誌「ふじみのひろば」の発行と配布、HPに「紙芝居屋さん」のアップ、行事の案内、園庭開放、手作り遊具や遊び方の紹介等に取り組んできています。今年度は地域になくてはならない保育園を目指す支援を検討するため、地域の親子を対象にニーズ調査を実施しました。回答を寄せられた保護者の考え方の傾向は把握できました。今後、さらに多様な情報を得られるよう、例えば、保育園見学者に拡げる等の検討が期待されます。
3	タイトル	個人情報保護に関する指導に加え、想定外の悪用や流出に備えさらなる取り組みが期待されます
	内容	子どもや保護者の個人情報保護のため、日常の個別指導や会議、ミーティングにおける指導や確認が中心になっていると見られます。これまで個人情報保護の観点から懸念となる事象は発生しておらず、職員の意識が高いことがうかがえます。ところが、スマホやタブレット端末によるSNSや動画サービスの利用等データの利用・保管や通信手段の普及や高度化が進んでいて、想定外の悪用や流出のリスクが懸念されます。園の保育や運営の情報に対するニーズが高まり、多様化するなかで、いかにセキュリティを保護するかさらなる検討が期待されます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園内の安全衛生の環境を整え、軽微な怪我から異常事態まで対処、対応できるよう訓練しています
	内容	安全衛生委員会を設置し、玩具の消毒や換気等、環境を整備しています。園内の危険箇所を確認し、子どもに伝え、自ら注意して行動できるよう取り組んでいます。看護師は朝夕に各クラスを回り、子どもの健康状態を把握しています。軽微な怪我等にどの職員も対処できるよう指導しています。各クラスで嘔吐や誤飲、転倒等子どもの異常な事態を想定した対応訓練の「シミュレーション計画」を立て、どのような動きを取れば最も安全な対応ができるかを訓練しています。訓練後に初期動作や以後の課題を整理し、看護師から指導を受け実践に繋がっています。
2	タイトル	特別な配慮の必要な子どもに、他の子どもとともに成長できるよう保育を実践しています
	内容	障害のある子どもには、個別指導計画に基づき障害の種類や特性に応じた保育を実施しています。障害のための訓練を受けている子どもについて、保護者から訓練先の指導方法を聞き取り援助に生かしています。運動会でも緊張することなくその子どものペースで参加し、リレーでは自らバトンを持って次の子どもに向かって歩行器で進むとする姿が見られたということです。参観する保護者に笑顔でアピールでき理解が得られています。子ども同士のやり取りを重ね、友だちとして理解が得られる等、ともに成長しています。
3	タイトル	地域の福祉ニーズを受けとめ、園の特徴を生かした多彩な活動を展開しています
	内容	園は高齢者のケアセンターと同じ建物の中に設置されていて、長年にわたり交流活動を続けています。新型コロナ禍の中でも方法を工夫して取り組みを継続し、ケアセンターの利用者や園の子どもに喜ばれています。地域の子育て家庭に対する支援事業で、園内に子育てひろばを開設し、イベントや子育て相談などを実施しています。現在、新型コロナ禍で予約制にしていますが、HPに毎月の予定を掲示したり、チラシを配布したりして、広く地域の子育て家庭に利用を呼びかけています。一時預かり保育や近隣の公園での出前保育等幅広く活動しています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	見てもらいたいという子どもの意欲を持続させ、保護者ができる限り参加できる工夫が期待されます
	内容	運動会等の行事は子どもが日ごろの活動を見てもらいたいという意欲を持って、子ども中心に実施できるよう企画・運営しています。今年度の運動会は感染対策を徹底し、クラスごとの入れ替え制で行いました。子どもの成長を見ることができたことと感謝の声が寄せられました。数年来、運動会が天候不順のため予備日の平日に開催したことで、保護者から開催方法や日程の工夫を求める要望が出ています。行事の延期に伴う子どもに対するマイナスの影響や保護者の負担に再考が求められています。今後、会場の設定を見直す等さらなる工夫が期待されます。
2	タイトル	保育の終了時に、子どもや保護者の不安を軽減するよう継続的な支援が期待されます
	内容	子どもや保護者の様々な事情により退園や転園を余儀なくされることがあると見られます。子どもや保護者の不安を軽減するため、在園中の担任が支援を継続することとしています。転園した子どもや保護者に、担任が窓口となって相談に応えたり、転園先に保護者の希望があれば情報を伝えたりすることはできると考えています。今後、退園後在宅生活や他の福祉施設の利用等に移行する子どもや保護者に対し、相談等の支援体制を整えておく必要はないか、そうした事案は少ないと思われそうですがよりきめ細かな支援を行う観点から体制の整備が期待されます。
3	タイトル	法人の検討ペースに合わせて、園独自の中期計画の策定が期待されます
	内容	現在、園では中・長期の修繕計画を策定し、計画的に施設の改修に取り組んでいます。2021年度、保育、人材育成、財務等も含む多面的な課題解決に取り組む中期計画の策定を進める予定です。策定に向けては、2020年度から職員同士で話し合う場を設けるなど継続的に取り組んでいます。園全体で課題と目指すべき方向性を共有して着実に進めています。法人でも現在新たな中期計画の策定を進めています。今後、法人の検討ペースに合わせて、園独自の新たな中期計画を策定することが期待されます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やケガの予防につなげられるよう支援を行っています
	内容	子どもの病気やけがを予防につなげていけるよう取り組んでいます。手洗いやうがい大切さを日常の保育の中で日々伝えていきます。看護師が手洗いを指導し、年齢によってわかりやすく伝えていきます。歯磨きは新型コロナ禍のため、練習のみに留めています。年間保健計画を作成し、安心・安全な環境の下で遊びを通して身体作りの支援を行っています。乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防について保護者に説明し、昼寝中の睡眠チェックを全クラスで徹底し、0歳児には体動センサーを導入しています。
2	タイトル	保護者等に園の出来事や生き生きとした子どもの様子について、様々な手段を用いて伝えていきます
	内容	保護者には、日々、玄関に設置したホワイトボードに一日の活動の様子を描き、担任が伝えていきます。ホームページは随時更新し、園の様子や「お知らせ」を発信しています。毎月、各クラスだよりを発行し、クラスの目標や担任の思いを記載しています。模造紙全体にその日の園の様子を書き込み、展示しています。保育会議で話し合った内容や職員の発言、年長児が学んでいる食育の内容等を分かりやすい絵や写真を添えて記載しています。保護者に園の活動を伝える有効なツールとなっています。
3	タイトル	職員の研修内容と経験年数等考慮して決定し、援助しています
	内容	年間研修計画をもとに個人面談を行い、研修内容と経験年数等考慮して受講を決定しています。受講が決まった職員は勤務表に入れ、受講できるよう配慮しています。園内研修を勤務時間内(主に子どもの午睡時間)に計画し、多くの職員が学びの時間を共有できるよう工夫しています。臨床発達心理士から、特別な配慮を必要とする子ども等への対応方法や保育に助言や指導を受けています。法人で職種別の研修等も行っています。個人の研修計画に沿って取り組めるよう半期で振り返り、進捗状況を踏まえ見直しを行っています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域の子育て家庭の親子に園庭を開放する等園児との交流にさらなる工夫が期待されます
	内容	地域への支援事業として、情報誌の発行をはじめ、半日保育体験、保育園見学、中学・高校生の職場体験、実習生・ボランティアの受け入れ、高齢者施設との交流等を計画しています。新型コロナ禍のため、子どもの安全・感染防止が求められる中で、対策をとって園庭開放を実施し、参加する家族があり、保育体験・育児相談等園を知ってもらう機会となりました。今後、地域の農園でのサツマイモや大根の収穫、戸外散歩等地域の人々と触れる機会を生かした、さらなる工夫が期待されます。
2	タイトル	非常勤職員が子どもの情報を共有して保育にあたるようさらなる検討が期待されます
	内容	朝・夕・日中に非常勤職員を配置しています。非常勤職員は常勤職員が手不足な場面に配置し、保育にあたっていると見られがちです。特別な配慮が必要な子等に不測の事態が起こらないよう非常勤職員にも申し送りを徹底しています。しかし、常に同じ時間や場面に同じ職員が配置されることはないため、子ども全員の情報を伝えることは困難と見られます。担当するクラスにどのような子どもがいて、どのような配慮が必要なのか等伝えなければいけない事柄を確実に伝える手順や方法に加え、情報を共有するツールのさらなる検討が期待されます。
3	タイトル	現行の事業継続計画の改善点を明確にし、速やかに見直すことが期待されます
	内容	安心や安全を脅かす危険に対する必要な対策を各クラスに掲示したり、文書で配布したりして未然防止や再発防止を図っています。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、保護者の意見等も聞き、その都度確認しながら進めています。子どもの事故等が発生した時にはリスクマネジメント委員会で取り組みを振り返り、原因を確認し、対策を立て、再発防止を図っています。現行の事業継続計画を見直し、水害や台風等を加えることと、非常勤職員を含む全職員で確認・共有することが必要と考えています。今後速やかに改定に取り組むことが期待されます。